



国民の森林・国有林

平成26年

第1回国有林モニターアンケート

結果概要

東北森林管理局では、開かれた「国民の森林」の実現に向け、国民の皆様の意見等の適確な把握とそれらの意見を反映した管理経営の推進のための取組の一つとして国有林モニター制度を設けています。

この度、平成26年7月～8月に、平成26年度第1回国有林モニターアンケートを実施しましたので、その結果についてお知らせします。なお、自由意見等については、抜粋・整理して掲載しております。

○ アンケートの実施概要

発送 : 平成26年7月14日
回答期限 : 平成26年8月8日
回答率 : 95% (44人中42人回答)

ご協力いただきました国有林モニターの皆様に、厚く御礼申し上げます。

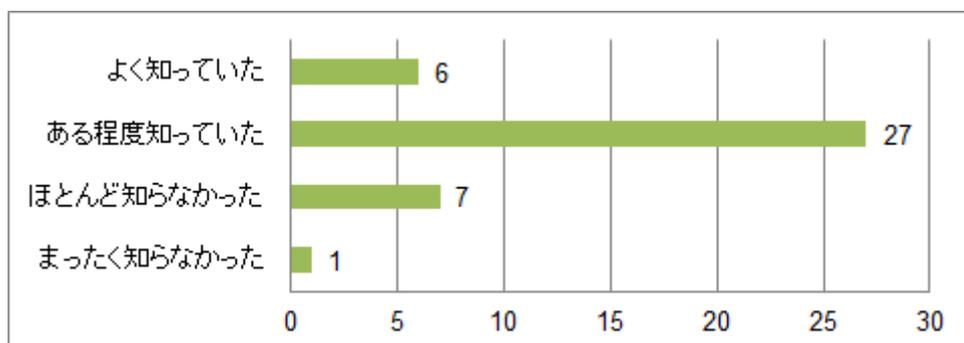
国有林モニター制度とは、アンケートの実施や国有林モニター会議の開催を通じて意見を伺うほか、広報・パンフレット等で情報提供を行うなど、国民の皆様と国有林との間で、双方向の情報受発信を行う取組です。

現在、平成27年3月までを任期として、管内5県の44名の方にモニターに着任して頂いております。

国有林について

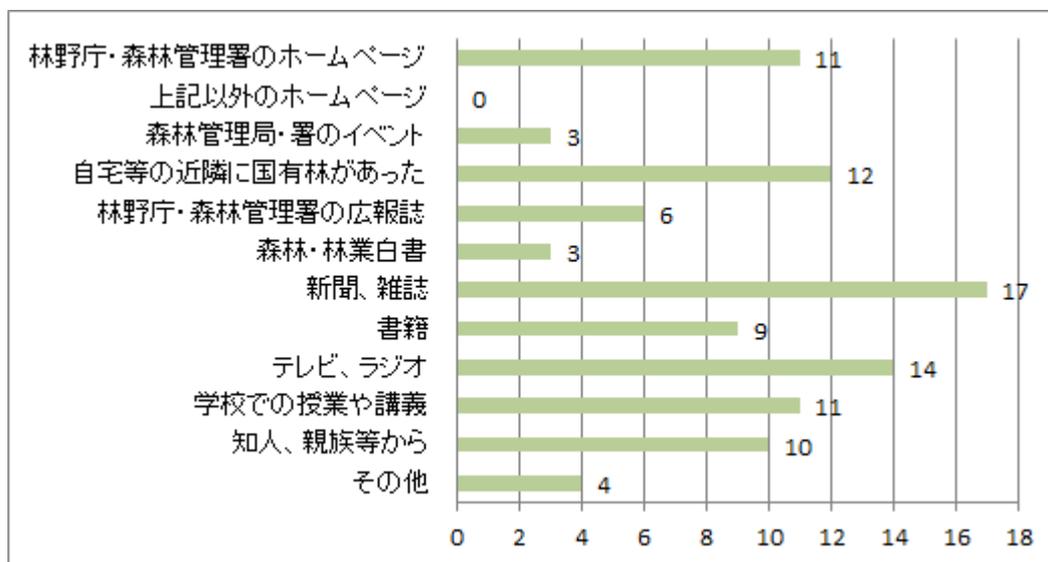
国有林モニターの皆様、国有林に対するご関心、イメージ、ご要望等に関して、以下の問いにお答えください。

(1) 国有林モニターなる前から国有林について知っていましたか。



(2) 国有林について、どのような情報を元に知っていましたか。

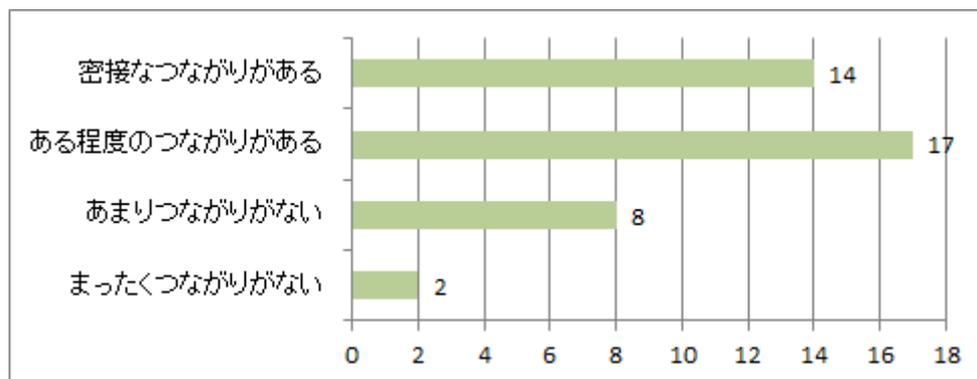
(1)で「よく知っていた」「ある程度知っていた」と回答した方31名に伺いました。
(複数回答可)



(「その他」の具体的内容)

- ・仕事を通じて関わりあいがあった(3名)。
- ・山歩きをしていて、実体験を通じて知った。

(3) 普段の暮らしと国有林との関係についてどのように感じますか。



○「密接なつながりがある」と感じられる理由

- ・ 治山、CO₂削減など重要な役目を果たしている。
- ・ 年々地球温暖化が進行していることを感じており、森林の育苗・保存の重要性を感じている。
- ・ 地球温暖化防止、心が癒される、山菜取り。
- ・ 国有林（森林）がもたらす「公益的機能」、特に「空気と水」は、私たちの暮らしに欠かせないものだと思う。
- ・ 昨年7月の山形県寒河江川上流の大雨で、山形県内陸部では、2～3日の断水となった。国有林がしっかりと機能したおかげで、あれだけの被害で収まったと思う。
- ・ 豊かな森林がなければ地球温暖化が進み、自然災害も多発し、生活ができなくなる。
- ・ 民有林も含めて手入れの行き届かない森林が増え、里山植物や動物が減少し、また林床植物が失われ、各地で山地土壌の流出などが発生している。
- ・ 国有林での有意義な取り組みは、民有林にも反映されるから。
- ・ 仕事の上で国有林と関わりがある。
- ・ 趣味である登山で、国有林地を目にする。

○「ある程度つながりがある」と感じられる理由

- ・ 生活の場の近くにはなくても、快適な生活を送るために常に機能しているものだと思う。ただ都市部の人々にとっては、その役割が意識されにくいのではとも思う。
- ・ 災害防止のはたらき、木材の利活用の推進など。
- ・ 災害の防止、国産材の生産、地球温暖化防止。
- ・ CO₂の吸収、酸素の排出、日本の地理地形と国有林との関係。
- ・ 台風や豪雨の際、近隣の国有林の管理が十分に行われていなければ、自らの耕地などにも被害が及ぶ。
- ・ 自宅の近隣に国有林がある。
- ・ クマが出たため。
- ・ 近隣に製材所や森林組合事務所があり、かつては木材産業が盛んで、地元で多くの雇用を支えていた。近くの国有林から伐採した丸太を運搬する営林署作業員もよく目にした。
- ・ 趣味の登山で林道を歩く際などに、国有林を示す看板をよく見かけた。
- ・ 財産区の委員に推薦されたことから、民有林・国有林を身近に感じるようになった。
- ・ 間伐材を利用した製品を見ることがあるから。

- ・山の恵み、風景など、生活に溶け込んでおり、あつて当たり前と感じる。
- ・市内に国立公園があり、年に数回訪れている。また山菜取りなどで山に入ると、国有林の表示などを見かけることがある。
- ・日本の国土の大部分が国有林であるため。

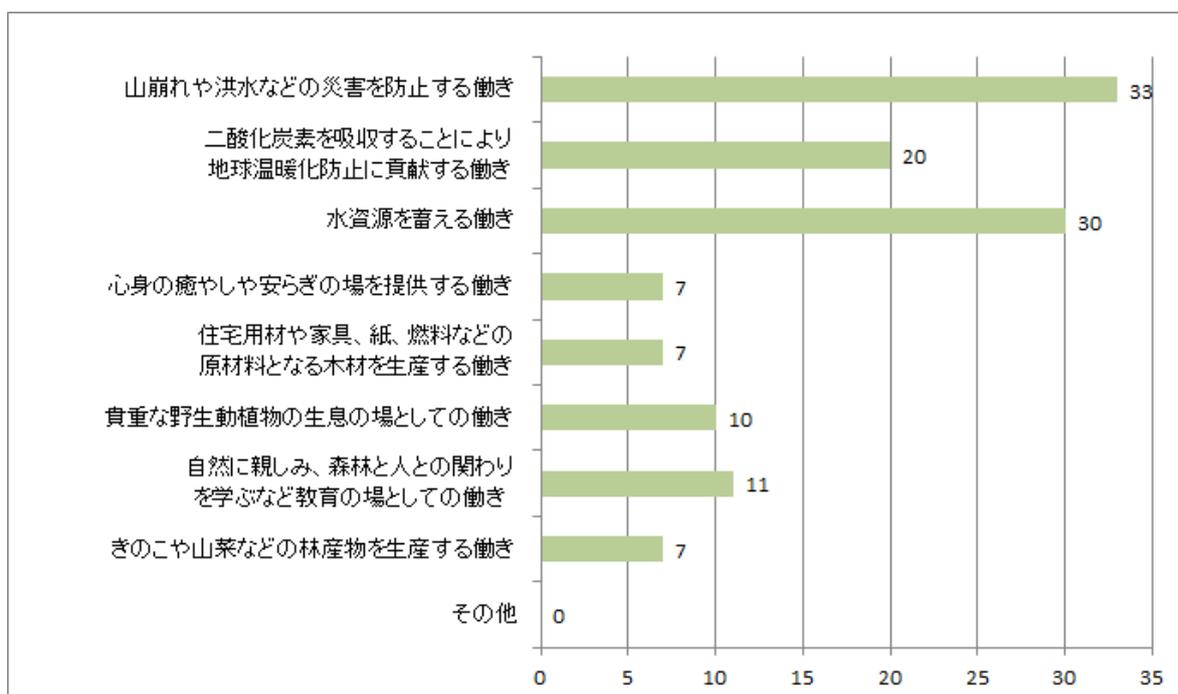
○「あまりつながりがない」と感じられる理由

- ・国有林が自分の住んでいる場所にあるかどうか分からず、遠い存在に思っていた。
- ・市街地に住み、仕事も森林・林業とはつながりがなく、国有林との関係がほとんどない。
- ・身近になかなか無いから（または無いイメージがあるから）
- ・市街地で暮らしており、職場も同様なので、国有林に入ることがほとんどない。
- ・国有林の木材がどの生活製品として使われているのか分からない。
- ・普段の暮らしでは、国有林内に入って活動することがないため、身近な存在ではない。ただし私有地の隣に国有林があるため、多少話を聞くことはある。

○「まったくつながりがない」と感じられる理由

- ・田園地帯にて、ラワン材・集成材の住宅で暮らしており、（国有林が）身近に活かされている環境にはないと感じられるため。
- ・小さいころから今に至るまで、国有林についての学習の機会がないため。また、国有林が近隣にないため。

(4) 国有林が今後どのような働きを果たすことを期待しますか。



(5) 国有林に対して望むこと等について、ご自由にお書き下さい。

(回答より抜粋)

<公益的機能の発揮>

- ・最近、異常気象などにより山地災害が多発しており、それらを防ぐ意味でも、もっと植林等を進め、木を大事にし、国有林も増やしていく必要があると思う。
- ・昨今自然災害が多いが、山をきちんと管理することで、生活の安全を確保できると思う。
- ・引き続き水源涵養にも力を入れて、継続してほしい。
- ・森林の多面的機能を発揮させるためには、施業にも民間人の知恵が各所に活用される必要性を感じる。
- ・地球温暖化が進み自然災害の危険が増してくる中で、その被害の低減のために国有林が重要な役割を担ってほしい。
- ・手入れの行き届かない個人の山について、国で植林することはできないか。はげ山をなくし、美しい杉山にして、おいしい水を蓄えてほしい。
- ・国土保全の見地からは、国が管理してくれるのはありがたい。研究・実態調査等、国にしかできない事業を進めてほしい。あとはもう少し、スピードのある効果があればよい。
- ・水不足を考えて、対応してほしい。
- ・針葉樹よりも広葉樹のほうが、CO₂吸収能力が高く、動植物生息の場としても良いイメージがある。もしこのイメージが事実であれば、広葉樹で、建材にも適するような樹木が増えれば良いと思う。
- ・広葉樹林の再生・保全
- ・地球温暖化の防止。
- ・防災、自然保護、国産材の供給。
- ・山形県蔵王では現在、アオモリトドマツの葉が食害に遭っている。国有林を大事にして、美しい樹氷の風景にしたい。

<環境教育やレクリエーション利用、イベントなど>

- ・国有林を利用した環境教育やレクリエーションなどを、これまで以上に盛んにし、地域振興につながる幅広い取り組みを、民間との協働で一層推進してほしい。
- ・国有林でのレクリエーション活動や、自然環境を守る活動も積極的に実施してほしい。
- ・身近に国有林があれば、癒しの場として有効に活用したいと考えている。
- ・地域や学校でも森づくり活動が活発になっており、様々な形態での森づくり活動のニーズが高まっている。
- ・いまの社会はストレスを多く抱える社会となっており、その意味で、森林空間利用タイプの森をより多く指定し、心の癒しとなるような森林空間、遊歩道などを提供してほしい。
- ・ダム周辺で行われるイベントが、最近になってようやく復活し、ほっとした。このようなイベントはとても良いと思う。

<森林資源の利活用>

- ・戦後植林した森林資源が利用可能な時期になったと聞いており、計画的に伐採し、植林するという安定したサイクルを確立してほしい。
- ・間伐、皆伐が急がれる時期に来たと思う。
- ・日本国内ではペレットストーブの普及がまだ始まったばかりのようであり、国有林内の間伐材を使ってペレットストーブをもっと普及させる施策が必要であると思う。
- ・木材のさらなる有効活用。木炭の混焼によるCO₂排出削減など。

<民有林への貢献>

- ・全国には私有林を持っていながら、どうしてよいかわからないと思っている人がたくさんいると思われるので、国有林が森林の利用促進のモデルとなり、それを私有林へと広げてほしい。
- ・国有林が私たちの生活に身近に感じるような関係であれば、私有林の所有者の人たちが、安心して林業経営ができる。
- ・木材価格の低下により山からの収入が見込めず、緊迫した状況。森林のもたらす公益的機能を国有林サイドからPRして頂き、今までとは違う、新しい意味で山からの恩恵（収入）が得られるような方法を考えてほしい。
- ・林業自体が人手不足で、これからどうやって管理していくのか。
- ・新聞で紹介されていた林業大学校が、早急に実現することを願っている。

<その他、国有林についてのご意見・ご指摘>

- ・森林ボランティアを施業に活用する方法が、日本ではまだまだ不足していると感じる。東北各地のボランティア、NPOについて人員・能力を把握し、行政の効率化を目指してもらいたい。
- ・国有林か国有林でないのかの区別がつきづらい。見分け方、境界線が必要では。
- ・山間部の人口が減っていく中で、災害防止のための国有林での施業は必要性が低くなっていくのではないか。なぜいまさらこんな工事をしているのか、と思うような治山工事がよくある。そのときの状況にあった予算の割り当てができるような組織になってほしい。
- ・林業作業員の対価が低いと思う。
- ・国有林がどのような働きをしているのか、PRが不足しているように思う。「もし国有林がなかったらどうなるか」という視点も交えて、テレビや新聞等での広報をもっと広げる必要を感じる。
- ・国有林への立ち入りが禁止されていることを知らなかった。過去の事例も含め、どのような行政処分が行われているのか広報してほしい。

まとめ（国有林について）

○ 国有林の認知度について

33人の方々が、モニターになる以前から国有林について「よく知っていた」または「ある程度知っていた」とお答えになった一方、8人の方々は「ほとんど知らなかった」または「まったく知らなかった」とのことでした。

国有林について知るきっかけとしては、「新聞・雑誌」（17票）が最も多く、次いで「テレビ・ラジオ」（14票）と、一般のメディアを通じて知ったという方が多いようでしたが、一方で、三番目は「自宅等の近隣に国有林があった（11票）」でした。

○ 国有林と普段の暮らしとの関係について

31人の方々が「密接なつながりがある」「ある程度につながりがある」、10人の方々が「あまりつながりがない」「まったくつながりがない」とお答えになりました。

つながりを感じる理由としては、地球温暖化防止や防災、水源かん養、木材生産などの森林が持つ機能を挙げる声が多く、またこれに次いで、登山や山菜とりなどで国有林と直に接する機会があることを挙げる声がありました。

一方、つながりがないと感じる理由としては、住んでいる場所の近くにない（またはあるかどうか分からない）、国有林について学ぶ機会がない、国有林の木材がどのように使われているか分からない、などの声がありました。

○ 国有林に期待する働きについて

1位は「災害を防止する働き」（33票）、2位は「水資源を蓄える働き」（30票）、3位は「地球温暖化を防止する働き」（20票）でした。これらは国有林と普段の暮らしとのつながりを感じる要因として挙げる声が多かった要素でもあり、地域の方々がこれらの機能を特に大切と感じておられることが分かります。

なお、内閣府が平成23年に実施した「森林と生活に関する世論調査」では、1位が「災害を防止する働き」、2位が「地球温暖化を防止する働き」、3位が「水資源を蓄える働き」でした。このことから、国民全体が森林に期待する働きと、東北の方々が国有林に期待する働きは、ほぼ一致していることが分かりました。

○ 国有林についての意見・要望について

最も多かったのは、「国有林に期待する働き」と同様に、公益的な機能を今後もよりしっかりと発揮させてほしいというご要望でした。またこれに次いで、森林環境教育や森林づくりの活動など、地域のために国有林を活用できるようにしてほしいという声がありました。

また、森林・林業にかかわる最近の情勢を背景として、木材の有効活用や、民有林の管理経営のために国有林が尽力してほしい、というご意見もありました。

これ以外にも、国有林の管理経営に関して、効率化・合理化を進めるべき、より分かりやすい情報提供が必要など、様々なご指摘を頂きました。